

有識者会議 会議録（議事要旨）

会議の名称	平成 29 年度 第 2 回かすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時	平成 29 年 10 月 5 日（木） 15 時 04 分～17 時 21 分
開催場所	霞ヶ浦庁舎 大会議室
出席委員	<ul style="list-style-type: none"> ・狩野 良和 委員 ・川島 宏一 委員 ・川村 成二 委員 ・菊池 克幸 委員 ・工藤 浩一 委員(代理：室住敬寛) ・小泉 敏明 委員 ・兵藤 昭彦 委員 ・古橋 智樹 委員 ・渡辺 一洋 委員 <p style="text-align: right;">(計 9 人)</p>
欠席委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大塚 洋一郎 委員 ・櫻井 理恵 委員 ・真藤 実男 委員 <p style="text-align: right;">(計 3 人)</p>
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ・渡邊 亨 (関東経済産業局地域振興部地域振興課係長) ・稲垣 陽介 (関東経済産業局地域振興部地域振興課係長) <p style="text-align: right;">(計 2 人)</p>
事務局等	<ul style="list-style-type: none"> ・今野浩紹 (株式会社かすみがうら未来づくりカンパニー) ・西山 正 (地方創生・事業推進担当) ・板垣英明 (地方創生・事業推進担当) ・関 聡史 (地方創生・事業推進担当) ・貝塚裕行 (地方創生・事業推進担当) ・猪俣直宏 (地方創生・事業推進担当) ・鈴木 薫 (地方創生・事業推進担当) ・斎藤隆男 (市長公室政策経営課) ・木村俊夫 (保健福祉部健康づくり増進課) ・大久保昌明 (保健福祉部子ども家庭課) ・大久保定夫 (環境経済部農林水産課) ・中泉栄一 (教育委員会生涯学習課) <p style="text-align: right;">(計 12 人)</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) サイクリングプログラムを核とした地域活性化DMO推進事業について (2) かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略「アクションプラン進行管理表」(H29.3 末現在)(案)について (3) かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略(2017改訂版)(素

	案) について (4) 意見討論 (自由討論) 5 その他 6 閉会
審議内容の記録 (審議経過、結論等)	
<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>【川島座長】</p> <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>この会議は、今までまち・ひと・しごと創生の戦略をつくり、その戦略に則って様々な事業の進捗過程を有識者がそれぞれチェックというとおこがましいですけれども、それに対して議論を加えることによって、フォローしてきたという経緯がございます。</p> <p>前回いろいろな議論がありましたが、かすみキッチンの事業者の方に話を伺いたいというのが、ひとつ本日の大きな話としてあったかと思えます。そういうことで、今日はその話がいただけるということを楽しみにしておりますし、また、前回時間の関係で必ずしも説明いただけなかったところの進捗状況をご説明いただくということ。それから、最後には大変うれしいニュースだと思いますが、地域未来投資促進法の対象地域として、様々な優遇措置が受けられるというようなニュースも入っております。</p> <p>本日は、新しいニュース、かすみキッチンの動きを具体的に教えていただくことを含めて、今日の議論をさらに深め、皆さんのお知恵を拝借して、このアクションプランの進捗が適切なものとなるように議論をさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>【西山理事】</p> <p>本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>この有識者会議というのは、地方創生の総合戦略が着実に進行しているのかというところをチェックしていただき、さらにその推進のためのアドバイスをいただくという会議体になっております。</p> <p>私どもとしましては、今日、皆さんにお配りしました総合戦略の進捗状況すべてに目を通していただいて、進捗についてご意見をいただきたいと思いますところですが、本日、ご期待申し上げるのは、個別に実施している事業に対する助言であります。</p> <p>かすみがうら未来づくりカンパニーの事業がわが市にとってみると、地方創生の事業の1丁目1番地、モデル事業でありますので、まずはこちらの事業のほうに実際的なご意見をたくさんいただきたいと思っております。併せて、地域未来投資促進法によって、さまざまな創生の事業をより効果的に推進していけると思っておりますので、後ほど紹介させていただきます。</p>	

それから、次年度の戦略の改訂に向けて、いくつか新しい事業を追加した部分もありますので、新しい事業について、皆さんから具体的なセッションをいろいろといただきたい、その3点を今日の会議の目標としていきたいと考えておりますので、どうか最後までよろしく願いたいと思います。

3 委員紹介

【小泉委員 連合茨城土浦地域協議会 事務局長】

【事務局】

欠席の連絡を受けている方は、特定非営利活動法人農商工連携サポートセンター代表理事の大塚委員、櫻井ブルーベリー園代表の櫻井理恵委員、かすみがうら市商工会会長の真藤実男委員で、3人を含めて合計12名の有識者会議の委員となる。

本日、関東経済産業局地域振興部地域振興課長の工藤浩一委員の代理として、関東経済産業局地域振興部地域振興課参事官の室住敬寛様が代理出席している。

また、議題の説明者として、株式会社かすみがうら未来づくりカンパニー代表取締役の今野浩紹様が出席している。

また、オブザーバーとして、関東経済産業局地域振興部地域振興課係長の渡邊亨様、関東経済産業局地域振興部地域振興課係長の稲垣陽介様に出席いただいている。

それでは、かすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第6条の規定により、座長が議長となることとなっているので、進行を川島座長にお願いする。

4 議事・質疑

(1) サイクリングプログラムを核とした地域活性化DMO推進事業について

【今野代表】

皆さんのほうでこういうチャンスもあるのではないかとっていただければ、どんどん取り組みたいと考えている。

【川島座長】

マイルス（MICE）という大げさですけど、いわゆる会議需要や研修需要があるのではないかと。

例えば、私の研究室で学生とどこに行こうか、キャンプに行こうかと迷ってしまうことがあるが、ここに誰も関心も持たない現状である。ちょっとしたキャンプとバーベキューができて少し食材を用意してくれるのならば利用の需要があるのではないかと。ただ、アンテナに掛からない。

【今野代表】

それは露出されていないということか。

【川島座長】

露出されていないし、眠っている需要にヒットしない。まだまだ土浦やつくばからこちらへ来るという需要はあると思うが、そこにトリガーとしての情報がいないと思う。

【渡辺委員】

大学生でいうと、産業能率大と市と我々と協定を組んで、今、お手伝いとかいろいろな形で産能大生が来ているが、泊まる場所がないので、自由が丘からだ泊れたらいいのに、キャンプやっってくださいと大学生の間でも話が出ている。

【室住委員代理】

現在、オープンイノベーションの手法で、大手企業、中堅企業も含めて、外部と連携して新しい商品開発や製品開発を進めている。

大手企業の動きで、いわゆる地域活性化型のいろいろなマッチングをしたり、具体的には観光DMOのところへ行って、実際に地域活性化に寄与するようなことを地元の人たちと一緒にやって、その中で自分たちの本業のビジネスにつなげるとか、電機メーカーが人を派遣するなどして、専門家の目から見たもので共通のホームページを自分たちで作ったり、あるいは外国人をインバウンドで呼ぶのに、地元の方言を加味した翻訳装置をつくることで寄与したりというところで、こういう（有識者会議のような）まさにキーマンの人たちが集まっているところで一緒の中に入って、いろいろ考えていく。そこで自分たちのビジネスにもつなげてゆくといウィンウィン（Win-Win）の関係を構築したいという大手企業もある。

こういう意味で、意見交換をぜひやりたいというニーズのある企業が結構多いので、是非紹介したいと思っている。

【今野社長】

例えば、これから2020年に東京オリンピックがあるが、東京に来て日本のいいものをもっと集めていきたいとか、こういう（かすみがうら市のような）地域で本当に美味しい日本の食材が東京に集まっていていっているような感触はあるのか。例えば、かすみがうらのコメやブドウとか美味しいから、東京でちょっとパッケージが可愛かったら、売れるチャンスがあるとか、そういうものが集まっている感じはあるのか。

【室住委員代理】

本当にそういう機能、先ほど地域商社みたいな話もあったが、そういう取りまとめているようなところで、東京に貸店舗をつくって、そういうのでPRするというのはよくやっている。そういうチャンスも非常にあるかと思う。

【川島座長】

かすみキッチンが茨城空港との連携はあるのか。

【今野代表】

現在のところ連携していない。

【渡辺委員】

茨城空港は春秋空港の上海便だけで、中国の方はあまり自転車に興味をもたないようなので、

県でも台湾のチャーター便を企画しているので、最初にやりやすい成功事例をつくるためには台湾かなと考えている。

【川島座長】

中国の本当の富裕層は農村を巡っていると聞いているが。

【渡辺委員】

そのレベルで行くのであれば、ここに来なくて千代田に行くので、今、歩崎公園をベースに自転車というテーマで考えている。

【川村委員】

家族が勤務している会社で毎年仲間とバーベキューをやっているが、まず、かすみキッチン
のバーベキューがネット検索で引っかからない。

かすみキッチンの事業の進め方を見ると高くてもいいから人が来るでしょうというイメージ
である。セットでひとり3,000円でなくて、やはり、安くできるメニューも必要だと思う。
他の業者さんと比べて、かすみキッチンのバーベキューのメリットはなんですかというのが見
えない。他社の調査をしているのかということ。

かすみキッチンのバーベキューの画面を見ても、バーベキューできますだけで、何を訴えて
いるのかが分からない。その辺をもう少し、メニューを増やす、持ち込みOK、いくらで簡単
にできますとか、あるいは雨でもできますとか、あるいは犬を連れてきてもドッグランがあり
ますなど。準備するのは大変でしょうけれども、食材でも一つのメニューにこだわらないなど、
そういうのがあるといいなという気がするので、もう少し市場調査、近隣の競争する相手のい
いところを調べて、さらにその上のいくという戦略があると他の人にも紹介できる。

SNSでやるよりも、やはり友達の口コミが生で非常にインパクトがあるので、そういうこ
とで何かうまくできないのかなという気がしている。

【今野代表】

皆さんがどういうふうに検索しているのかも含めて調査する。

【川村委員】

会社の同期でバーベキューをやろうとなって、選んだのが酒を飲んでも駅まで帰れるバスル
ートがあることから、土浦市の水郷公園であった。そういうプラスアルファ的にどうしてもお
酒を飲む人がいつと必要になってくるので、市としてもそういうルートがあるといいのかなと
いう気がしている。

【渡辺委員】

それを課題として、自転車もそうだが、何か走って欲しいなと感じている。

【今野代表】

それはバスというインフラがあるからということになる。ここには現状でバスルートがない
が、7人程度あればプラスの負担をいただいて送迎ができる。

【川村委員】

それでもいいと思う。そういうメニューがあるかどうかで強みになると思う。

【渡辺委員】

夜のレストランも同様に課題となっている。神立駅や土浦駅までの送迎があれば団体で行きたいという声もある。

【川島座長】

地元の消費というのはいかがか。

【今野代表】

バーベキューは地元の方々が結構多いという感覚はある。スポーツ少年団でお母さん方は片づけをしなくていいというのが、使い勝手がいいということなので、そういうところを知ってもらおうということをしていかなければならないと思っている。

【川村委員】

土浦市の水郷の良かった点は、予約時間に行くと既に火が起きていて、いつでもできる体制で、お客は何もしなくていい点である。時間が来たら自分たちの物だけ片付ければ事務所の人が火を消してくれるし、片付けてくれるというシステムとなっていた。それであると30分前に行って火を起す先発隊がいらなくなるので、非常に楽になるから、気軽に行けるということもPRできるとお客は来ると思う。

【菊池委員】

先ほど露出不足という意見があったが、やはり、かすみキッチンと名前がまだまだPRが足りないのかなと思うが、SNS関係でのPRが中心だからか。というのは、若い世代にとっては有効な手段と思うが、中年以降の方々にとっては、新聞でこういうイベントがあったというような記事が出ることによって、親しみ深くなってくると思う。そういう意味では先ほどの説明ではイベントができていなかったということであるから、今年からイベントを積み重ねて発信していただければ、我々も協力できるのではないかと思う。

【川島座長】

当初のターゲット顧客と大体同じであるか。実は違っていたのか。

【今野代表】

わかりやすいのはバーベキューで、当初は他地域から来てもらうことを想定していたが、域内の人が手軽さを感じてくれて、結構来てくれるようになっている。

サイクリングは割合でいうと、県内が3割、県外が7割で7割のうち3割が都内というデータが取れているので、当初想定していたとおりになっている。

かすみキッチンは他地域の方と域内の方々が半分半分ぐらいとなっている。やはり、夜に地域の方々に使っていただきたいという思いはあるのだが、送迎だとか、飲んだ後にもう1件となったときに、次の店が近くにないなどの弱みがある。

【渡辺委員】

これから、ナイト水族館や星空ウォッチングとか、いくつかの案を出して、基本は泊まって

いただけるような、グランピングも含めたキャンプサイトを考えている。

【川島座長】

今、キャンプしようと思えば、できる場所はあるのか。

【渡辺委員】

歩崎公園には芝生の広場がある。

【川島座長】

そこでできるのか。

【渡辺委員】

それがなかなか難しい状況となっている。

【事務局】

河川事務所の管理地域となっている。

【渡辺委員】

行政頼みの部分がある。

【川島座長】

その辺でブレイクスルーがありそうだ。

ここで、地域未来投資促進法の認定を受けることによって、やりやすくなるということはないのか。

【事務局】

規制緩和にチャレンジしやすくなるということはある。

【川島座長】

やはり、使えていない資源がまだまだありそうである。

【渡辺委員】

当初計画には、キャンプの計画があった。

自転車でキャンパーが来た時には、物をもってこないの、酒などの販売につながる。

ただ、夏にわかさぎ虫が多いという課題があるが、今は秋キャンプ、春キャンプ、冬キャンプが流行っているので、星もきれいだしキャンプにはうってつけの場所だと思う。

【川島座長】

学生を連れて研修やって、泊まらないけど丸1日過ごすということはあるか。例えば、午前中はサイクリングして、昼食を食べてなど。

【渡辺委員】

ここ、本日の会議場所である農村環境改善センターでは宿泊ができる施設となっている。

【事務局】

自炊という形での宿泊となるが、市民でなくても宿泊可能である。

【川島座長】

稼働率はどうか。

【事務局】

稼働率は低い状況となっている。

【オブザーバー：稲垣】

今回、地域未来投資促進法の認定を受けたことをどんどんPRしていければと思う。

需要として、ニーズとして、子ども向けや家族連れでの先ほどのキャンプもそうだが、そういった部分のアピールも大事だと思う。

今後、交付金を活用して様々な整備を進めていくことで、集客率が上がってくると思う。

サイクリングも土浦市からの集客もあると思うので、そういった部分も含めて、全体的にアピール、PRポイントを増やしていければと感じている。

【今野代表】

昨年度子ども向けにハロウィンイベントを実施したり、父の日や母の日にお弁当づくりをしたりなどを実施してきた。

現在、年間5万から6万人の水族館の来訪者を交流センターに呼び込もうと、ザリガニ釣りを実施しているが、あまり評判が良くない状況である。

【狩野委員】

地理的な部分で厳しいところがあると感じている。交通網があれば、手軽に来て帰れると思う。その辺で何か対策はないものかと思っている。

例えば、最初はなかなか来ないかもしれないが、綿菓子や景品のおもちゃがとれるなどの模擬店を定期的にやっていると、今日は何日だからあそこで何かやっているということが意識づけられるといいかなと思う。

【川島座長】

この議論は継続していなければならないので、とにかく黒字になるまで頑張ってください。

(2) かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略「アクションプラン進行管理表」(H29.3末現在)(案)について

【川島座長】

事務局のほうで、ここが遅れていてアドバイスが欲しいとか、ここの部分について、打開策が見つかっていないとか、そういう部分はあるか。

12ページから14ページの一覧を見ると、基本目標3については、いろいろ取り組んでいるが成果が出ていない。基本目標2については、取り組んでいるがまだまだである。それに比べて基本目標1と基本目標4については、あまり取り組みをやらずに成果が出ているところがあると読み取れるが、この辺をどういうふうに評価するか。例えばこの有識者会議で基本目標3の若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるということについて、取り組みはしているが実際の成果目標である成婚定住者数などの達成ができていない、それが自己評価としてど

うか。

【事務局】

基本目標3の成果の中で、満足度・住みやすさの割合などについては、現時点で調査していないので、成果として表れていない部分もある。

現在の課題としては、婚活支援の部分で、婚活イベントを実施して成婚した場合に助成金が出るという制度を作っているが成果が出ていない。やはり、年3回婚活イベントを実施しているが、回数を重ねると参加者が減少している傾向にあることから、今年度から同様の課題を持つ近隣の自治体と連携して取り組みを進めているところであるが、なかなか参加者確保とその成果が難しい状況で、所管部署では大変苦勞している状況にある。

【川島座長】

そもそも、KPIが厳しいのかもしれない。

成婚定住者とは、婚姻届を提出した人が住居をかすみがうら市に置くということか。

【事務局】

かすみがうら市内に住居を置く方を対象としている。

基本目標3の項目には、学費負担の軽減のところで、奨学金制度の取り組みがあるが、原資の部分であるとかも含めて、所管部署では導入に向けての検討を加えているが、なかなか制度化できていない状況にある。この部分のKPIにしても6歳から23歳の人口割合の維持ということで、達成が難しいKPIとなっているところがある。

各部署とのヒアリングの中では、その辺の見直しも含めて協議しているところである。

【川島座長】

KPIを安易に下げるのはおかしいと思うが、ものさし自体の計る精度が悪かったのも、ものさしの精度を上げることはすべきと思う。物事を計ろうとしているそもそものはかりが図れていないとすれば、それははかりを変えなければいけない。ただ、レベルは安易に変えてはいけない。そういう意味で、必ずしも結婚せずに同居して住んでいる場合など、その辺はどうか。

【事務局】

把握することが難しいところで、このKPIについては、成婚定住者への助成制度を活用するなど、把握できる範囲で設定している。

【川島座長】

本来、柔軟に修正すべきである。活動をしているにもかかわらず成果が上がっていないとすると、成果がそもそも活動と合っていなかったのではないか。だから、どちらも修正ありなのではないか。KPIも修正ありだし、活動自体も修正ありだと思う。その辺、忌憚のないご意見をいただきたい。

そもそも子育てとか就業機会の増加が大きな議論としてあって、子育て支援は進んでいないが、企業誘致は進んでいるという印象を受けている。これは、活動した成果として企業が来ているのか、活動しなくても企業が来たのか。

【事務局】

企業誘致は、助成制度を見直した成果として表れているものもあるし、新規就農に関しては、ほぼ成果目標を達成しているが、創生が始まる前から継続している従前の取り組みの成果という部分も出ている。

基本目標3の部分については、当初、赤い糸パーティーを計画していたが、同窓会の開催を検討していく中で、Uターン定住と婚活という、同時に2つの目標設定をすることが難しいということで、赤い糸パーティーの実施を見送ったこともあるので、新たに取り組みを検討しているところであるが、新たな施策を盛り込むに至っていない状況にある。

企業誘致の取り組みについては、我々が企業誘致体制を整えて、PRしてそのPRでニーズが掘り起こされたというよりは、昨今の景況もあってニーズ自体はかなりあったものを確実にキャッチして、そこに施策を紹介することによって立地の速度を早めることができたということで、体制を整備したことが効果につながっているというふうに見ている。

新規就農者が着実に増えているというのも同様で、やはり、ニーズはあってそれに対して市役所の所管部署が的確にそのニーズをキャッチするような動きをしていることが成果に結びついていると分析している。PRしたからニーズが掘り起こされたものではないと思う。

婚活については、所管部署でオーソドックスな婚活パーティーをやって、自然体でカップリングに成功して、定住してくれたらお祝い金を出すとうことで成果に繋げていくことをやっているが、こちらは、ニーズがもともとあまりない、昨今の結婚の流れ、出会ってから結婚する人たちのそういう流れにマッチした施策の提供になっていないからなのか、取り組んではいるが、成果に結びついていないと思う。

所管部署で実施している婚活事業は正攻法ではあるが成果が上がっていないのであれば、何かしら工夫を加えていかなければいけないと思うが、どう工夫したらいいのか、ノウハウや知恵がないということもあるので、この場で他の地域の事例も含めて、こういった取り組みが他の地域で成功に結びついていると助言いただきたい。

【川島座長】

愛媛県の婚活のマッチング紹介サービスがある。

過去のマッチングパターンに基づき、お互いの属性でマッチする頻度が高い異性の属性を出しておいて、新しい相談事例が出たときに最もヒットするところからあたっていく。このように紹介のマッチング頻度を高めるため過去データ分析をやってヒット率が高まったという有名な例がある。

【事務局】

地域の労働組合でも福利厚生の部分で、カップリングパーティーの取り組みをしているとの認識があるが、成果があった例はあるか。

【小泉委員】

土浦地域労働者福祉協議会でふれあいパーティーなどの取り組みを毎年実施しており、今年

も実施したが、カップル成立はなかった。

県の労働者福祉協議会でも同様の取り組みをしており、他の地域に比べると活発にしているほうかなと感じている。

【渡辺委員】

企業レベルでうちの銀行もやっているが、銀行の行員と公務員とか警察官とか、職種を絞った職場関係を銀行が主催してやるパターンと県が民間に委託してやっているケースが多くて、なかなか行政が主体で動くとは意外と敬遠されるというような話も聞出ているので、1回やれば十分かなと思う。結婚まで追いかけると敬遠されて来ない。民間の場合だとクローズでやっている。

【事務局】

現在は、追いかけて最終的な成果を確認しなければいけないということがある。

取り組みがというよりは、K P I の設定の問題かと思う。

【川島座長】

K P I の設定に無理があったように思う。

住宅から農場からスキルトレーニングから1年間フルサービスなど思い切りやっている自治体はないか。それくらいガツンとやると効かないか。

【事務局】

大子町や、給付型の支援策をパッケージにして受け入れをしている東京都奥多摩町などがある。

【渡辺委員】

うちの銀行で、大学から戻ってきた人には、銀行のローンを町が肩代わりする奨学金ローンを大子町でやっている。

【川島座長】

4つの基本目標は相互に関連しているので、要するに職場ができなかったら結婚もできない、結婚しないと子供ができない、そういう連鎖があるので、4つの目標が同時に上がることはなくて、ある意味、就業の機会がまずできて、若年層が定着し、そうするとふれあいの頻度が高まり結婚する、こういうことがあるような気がする。あまりにもすべてが一気に進むというのはちょっと現実的には、たまたまそうなることはあるかもしれないが、難しいのではないか。

【事務局】

企業誘致については成果が上がっている部分があるが、そこでの課題として、市の助成制度に市民の雇用要件があり、立地した企業が募集をかけても市民からの応募が少なく、市民の雇用に苦労していることがある。

【川島座長】

大子町や奥多摩町と同じことをやってもしょうがないので、例えばフルーツ系の農業をやりたい女子とか、かなり特色のある打ち出し方をしないと。特色のある打ち出し方をすれば、全

国には興味を持つ人がいる。こういう暮らしをするなら、かすみがうら市ですと、そういう暮らしをしたい、結婚生活はここがベストという、そういう売り方をしないと来ないのではないか。お金のパッケージではきっと来ない。

【事務局】

30歳未満で非正規雇用の未婚女性の考え方としては、Uターンではなくて、東京圏に出て帰ってくると負け組になったみたいに感じるので、どちらかという希望としては、Iターンの希望が多いという話もあって、30歳未満の女性というのは、まさに当市の中で転出の多い部分でもあるので、そこをうまくマッチングできないかと考えている。

【川島座長】

ターゲットを絞ってズバツとやると、うまく認知されればヒットする感じがする。

【事務局】

現在の戦略の中では、IターンよりUターンの施策が盛り込まれている。

今後、そういった需要、意向があるのであれば、Iターンの施策も考えていかなければならない。

【川島座長】

今日の会議ではこの進行管理表をこれでいいかどうかということを決めなければいけないか。

【事務局】

そのようにお願いしたい。

また、進行管理表を公表するに当たって、前回提示した部署別の進捗一覧を削除して、5ページから14ページを公表することについて審議をいただきたい。

【川島座長】

アクションプラン進行管理表については、特にこれで支障がないと思うが、皆さん何かございますか。

【川村委員】

今回、この変更点を見たときに、資料4のNo.15について、取り組みが変わった点があるが、内容は100ページを見る限り、前回の資料と変わっていないと思うが。

それから、100ページの進捗状況の欄の平成29年度の取組予定と101ページにある平成29年度の取組計画がマッチしていないがどうか。進捗状況では研究、検討となっているが、PDCAの計画のPの欄では、実施、PR情報発信となっている。実際ポイント制度はいつからやるのか、また、やっているのか。そこが全然見えない。

湖山の宝巡りパスポートをやめて、ポイント制度をやるにもかかわらず、KPIが1,000人のままとなっており、目標設定も変えていないのはちょっと検討が不十分だと思うが。

地域ポイント制度として、どうやるか、いつから具体的にオープンして、具体的にどんなことをやるかというのが見えない。それはどういう計画か。

【事務局】

当初は、今年10月頃までに制度を構築し実施する予定であったが、ポイント制度の詳細部分の検討に時間を要したため、現時点では、今年度内までに実証をして来年度以降本格実施するというので、スケジュールを見直して考えている。

KPIについては、1,000人の登録を目標としていますが、地域ポイント制度はアプリを使用する予定で、アプリのダウンロードが1,000人ということで、目標をそのまま移行させるとしたものである。

記載内容の整合性の点については、再度検討し調整する。

【川村委員】

今聞いて、初めてアプリという言葉が出てきたということで、この中にならぬから何をやるのかが分からない。

【事務局】

この点については、資料が平成28年度までの内容となっており、平成29年度は予定として記載しているもので、今後実施する平成29年度の間接報告の進行管理表には、その辺の内容が取組内容に記載できると思う。

【川島座長】

今の議論が重要だと思う。なぜかという、先ほど公表するのは14ページまでとの説明があったが、そうだとすると、今の議論内容はわからない。平成28年度にどう取り組んで、平成29年度にどう変化させようとしているのかということ自体が、もし、進行管理表の改訂内容に入れるとすれば、なぜ出さないのか。出したほうがいいと思うが。

【事務局】

特に理由があるのではなく、個別施策まですべてとなるとデータ量が大きいため14ページまでと考えた。

公表の仕方として、14ページまでを表示して、個別の施策の状況を確認したい方については、リンクできるようにして確認していただくという方法もある。

【川島座長】

この進行管理表はページが多いので、なかなか読みづらければHPでリンクすることができれば、そうしたほうがいいと思う。もし、リンクできなければすべて公表したほうが、読む人が多くなくても、市の信頼性は上がると思う。

【川村委員】

ただそれをやったときに、11ページに施策の一覧表があるが、今の地域ポイント制度については、施策の2-2-3のリピーターの確保という施策に入っているわけで、これだと分かりづらいので、11ページの中でアクションしようとしている内容を簡潔にわかるようにすると、その内容を見たい人がクリックしていくのかなと思う。

また、総合戦略30ページの新エネルギーとは何か。KPIの自立・分散型エネルギー設備

の導入支援とは何か、もう少しわかりやすくして記載することが望ましい。

【事務局】

資料7の総合戦略では、施策名に対してその取り組み内容が記載されているので、そのような記載内容に訂正する。

【川島座長】

アクションプラン進行管理表については、11ページの部分に総合戦略に記載されているように、取り組み内容を加えることでよろしいか。また、公表内容はすべて出してよろしいか。

そういう形でアクションプラン進行管理表については、より分かりやすくして、全部出すということで納得いただければ、それで進めることとするがよろしいか。

<異議なしの声あり>

それでは、特に異議がないということでそういう形で進めていただくこととする。

(3) かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2017改訂版）（素案）について

【川島座長】

位置づけとしては、アクションプラン進行管理表の改訂とか、今までの進捗の把握を踏まえて、その結果、改訂するという考え方の整理でいいか。

【事務局】

そのような考え方から改訂をしている。

【川島座長】

今回の案自体は今回の議論だけで具体的にこう修正するというような意見の出し方は難しい。

基本目標3については、マドンナプロジェクトがなくなって、その代わりに何か具体的にヒット施策があるわけではなく、このままでだとなかなか成果が上がらない部分もある。

【事務局】

総合戦略の見直しの中で、27ページでは、KPIを見直した部分があるが、この部分については、現在、取り組みが進んでいるところでもある。25ページから27ページの基本目標3の部分は、達成されている部分がないところであるが、先ほど議論になった成婚定住者数10組というKPIの設定については、継続して検討を加えたいと考えている。

【川島座長】

今時点の総合戦略というのは、今日までのアクションプランの進捗のレビューを踏まえた時点更新というか、効果がなくて何ともしがたいものは削除するということであるが、その代替案としての本当に効果がある施策が出ているかというところではないということか。

【事務局】

代替案は出していないが、新たな取り組みとして、果樹のふるさと再興や健康づくりの推進など、新たに加えた施策がいくつかある。

【川島座長】

まち・ひと・しごと創生総合戦略は、戦略に記載されているが、平成31年度までか。

【事務局】

この総合戦略については、平成31年度までの計画期間となっている。

【川島座長】

そうすると、この総合戦略については、今後も見直しのタイミングはあるということか。

【事務局】

今後も計画期間内において、見直しを加えていくことを考えている。

【兵藤委員】

総合戦略策定の段階では、それぞれの分野の意見を取り入れるであろうという意義が理解できたが、戦略が策定され実行されている中で、今回のような会議が開かれて、我々にどのような意見を求めているのか。その辺が今ちょっと理解ができていない。我々は戦略のチェック役として呼ばれているのではないという気がしている。その中で、このメンバーにどの部分に対しての意見を求められているのか見えにくいので、その点をもう少しわかりやすくしていくとこの議論も活発化すると思う。

先ほど、住民を増やすという方向の話があったが、その中のひとつが今回の会議の会場になっている農村環境改善センターという施設のネーミングにも、少なからず影響があるのではないかと思う。資金の出どころ上、そういう名前をつけざるを得ないということは理解できるが、こういう（魅力の感じられないネーミングがされた）ものがあるところに、果たして魅力を求めて住まれる方がいるのか疑問に感じる。

今回、K P I という目標を設定した中での達成度合いを発表するという事だから、ここで、こういう意見を言っても仕方ないと思うが、もう少し長期的に、これとはまた別に、これを踏み台にしたその先を見たほうが良いような気がする。

先ほど住宅補助などについての議論があったが、お得な制度を目当てに来る住民を望んでいるのか。そうではないと思う。それが一番手っ取り早い方法でそれをやらないと住人が増えないという現状はあると思うが、お得だからかすみがうら市に住むというのは、あまりにもちょっと寂しいのではないか。魅力があるから、こういうライフスタイルだったらかすみがうら市だというような方向が良いのではないかと思う。

【事務局】

皆様方は、この膨大なアクションプラン進行管理表の内容について、チェックをお願いするという事のみで呼びしているわけではない。ただ、国のほうからも求められているのが、地域の多分野の方に集まっていただいて、1年1年戦略の内容について、幅広くチェックを受ける必要があるということなので、チェックの部分もお願いせざるを得ない。

皆様方からオーソライズいただくとともにさらに重要なのが、個別の事業について、特に行き詰っているような事業については、効果的に進めるためのアイデアをいただく、その部分がこの有識者会議の肝であると考えていて、そのために今日は会議の前半に当市の地方創生のモデル事業となっている株式会社かすみがうら未来づくりカンパニーの取組現状について、代表の方から説明をいただき、それに対して実直な意見をいただいたというところは、今日の会議のハイライトだと思っている。今後のそのような形で我々もこのテーマについて意見をいただきたいということを明確にしながら、有識者会議を引き続き開催したいと考えている。

それから、何かこの市に住むとお得だからと金銭的な目的だけで住民を引き付けようとするのは、まず、それだけの財源もないし、それによって集まった人たちが本当にこの地域を盛り上げてくれるのかということも期待できないと考えなければならない。

かすみがうら市で暮らすライフスタイルにどういう魅力があるのか、わかりやすく発信して、それに賛同する人たちに地域に移り住んでいただいたり、戻ってきてもらうということだと思う。

かすみがうら市に住むライフスタイルの提案というところを含めて、かすみがうら未来づくりカンパニーが事業を展開しており、交流人口の拡大から定住人口の拡大につなげていくという意味でも重点化していきたいと考えている。

【川島座長】

総合戦略の見直し内容を見ても、少しずつ変化していて、果樹のふるさと再興という施策も加わっているが、その施策に対するご意見はないか。

【兵藤委員】

後継者不足という言葉が私にはなじまない。まず、そもそも、農業人口を増やして農業所得が平均どのぐらいなのかという問題も出てくるが、後継者不足というものはその産業自体が儲からないから、後継者がいないというだけの話であって、商店街の一商店の方に後継者という言葉はあまり使わない。なぜか農業だけは農業後継者という言葉を使っている。その辺がちょっと何か農業だけ特別な目で見ているのかなという気がして、こういった目標設定をすることに対しても違和感がある。

新作物の作付けというのは、果たしてそれは行政目標として掲げるものなのかと、そういう考え方である。

農業だけでいえば、専業農家はかなりの割合で土地を借り入れているケースが多いが、そのライバルとして浮上しているのが、太陽光発電である。実際に太陽光発電をやりたいから、畑を返してくれというケースが現れている。そういったものも含めて、農業というものを儲からないのならやめたほうがいいのかというのが一般論なのかと思う。なぜ、儲からない農業を農業後継者という名前を付けて作り出さなくてはいけないのか。儲かる農業の経営者を育てようという方が先かなと思う。

【川島座長】

農業の生産性とか所得アップの問題は、本来の農業政策の根幹としてやっているのでは。

【事務局】

後継者を儲からない農業に無理やり連れてきて仕事をやってもらうことではなく、この果樹のふるさと再興自体は後継者に技術を伝承して、第三者承継を進めていく、現場に後継者を連れてくるという事業になってはいるが、併せて総合戦略の中でも農商工連携とか6次産業化という形で、この地域で作って市場に出すだけでなく、地域の方が少しでも価格決定権を握れるように、あるいは手取りが増やせるように地域内で加工を進める取り組みもやっていくことになっている。

【川島座長】

総合戦略についての意見があったので、それらを踏まえて次回に議論することとするが、今日は「この内容について特にどこをどうしたらいいか」という議論まで入ってなくて、このとおりでいいかどうかという議論しかできないと思う。今日いろいろ指摘があって、まだまだこの議論だけでは少し消化しきれないというか、必ずしも熟した議論までいけないところがあったように思うので、今日の段階では、この総合戦略の改訂を、この有識者会議として、議論して認めたということで、また次回に向けて、子ども関係とか農業関係については、さらに最新の状況を踏まえた戦略のバージョンアップが必要である。特に子ども関係については、地方創生が人口問題からきていることもあるので、ちょっと今のままでいいのかどうか、もう一工夫いただきたいという感じがある。

【渡辺委員】

企業誘致のところ、施策がちょっと弱いのかなという感じがしている。先だって分社化している工場の集積をしたいというのがあって問い合わせをしたが、出てきたパンフレットがよくわからないのと、求めた資料がすぐに出てこないというところがあって、また、企業誘致制度の助成金の拡充ということについてもよくわからなかったため、結局、かすみがうら市は積極的ではないということで、土浦市内の土地をという方向に流れかけているという案件がある。

【川島座長】

企業誘致の問題については、いろいろな自治体で工夫をしていて、例えば、担当部署が企業誘致でないところに行っても、もともと企業誘致セクションにいたときに携わったパートナー企業とはずっとその人が窓口になるということをやっている自治体が結構ある。決して、相手に対して私は担当でないとは言わず、必ずつなぐということをしている。

それでは、総合戦略については、原案のとおりで認めていただいたが、まだまだ議論が続くべきであるので、そういったことは今後の議論として深めていただきたい。

(4) 意見討論（自由討論）

<時間超過のため未実施>

5 その他

地域未来投資促進法に基づく基本計画の認定を9月29日に受けたので、地域資源を活用した地域経済循環を促進したいと考えている。

次回のスケジュールについては、11月下旬の開催を予定している。

6 閉会